

# AWARD OF THE YEAR 2017 6病棟

今年度、3つの病棟目標をあげ、各色チームが主となって目標達成に向け活動してきました。地域包括ケア病棟の役割を認識し、一般病棟からの転棟患者受け入れ、退院支援に取り組んだので報告します。



## 多職種との連携を図り、適切な退院支援の充実に努める

☆1チーム制を活用し昼のカンファレンス時に全員で情報を提供し合い、ADLの状況や退院支援の進捗状況を情報共有し多職種とのカンファレンスに臨みました。オレンジチームが主となって退院支援に向けた取り組みを行いました。



## 専門分野の看護知識の習得と向上に努める

☆4月からバイパップ装着の患者さんがいない期間がほとんどありませんでした。慣れない呼吸器や毎日の口腔ケアについてなど学習会をみどりチームが主に企画・運営しました。



事例検討回数		
退院支援	認知症	インシデント分析
2回	3回	6回

### トイレの中でもお勉強

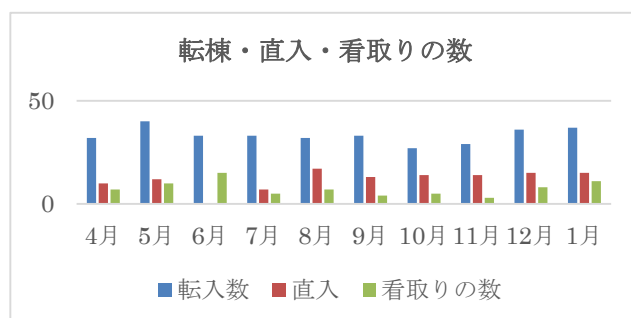
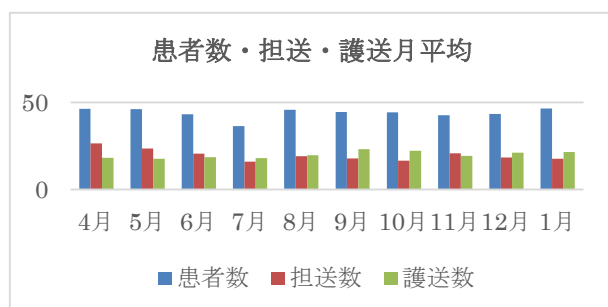


## PNSによる安全で安心な看護の提供

☆1ペア受け持ち人数は10~14名で、そのほとんどが日常生活動作の介助を要する患者さんです。1日の食事介助7~13名 入浴介助：12~16名（月・火・木・金）等を、強力な協働者である看護補助者6人と一緒に行い、安全で質の高い看護の提供を心掛けています。多忙な業務を働きやすい環境で行えるように黄色チームが主となって環境整備・業務改善しました。また、副師長さんが主となって取り組んだ『1人リーダー』は全体を見渡し業務が円滑に進むように調整してくれています。



平成29年度 6病棟のベッド利用率は 月平均 81.3%（でした）。



6 病棟は地域包括ケア病棟です。

一般病棟（急性期）での病気やけがの治療を経過し、病状が安定した患者さんに対して、「在宅復帰（自宅退院）や居宅系施設（介護施設）入所に向けて医療支援をおこなう」ための病棟です。

在宅療養に不安な方や、あと少しの入院で社会復帰が可能な方に、主治医をはじめ看護師、リハビリのスタッフ、在宅復帰支援担当者（ケースワーカーなど）が連携して、患者さんやご家族の意向を確認しながら、早期の在宅復帰に向けて準備を行っています。

入院患者さんは、ご高齢の方が多いため、日中はベッドから離れて生活のリズムが整えられるよう支援しています。円卓を囲んでの食事や、折り紙、ぬり絵など行っていただきながら、入院できる期間が 60 日（約 2 ヶ月）という制限の中で、患者さんに必要なサービス調整を行っています。

